

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-180458

(P2014-180458A)

(43) 公開日 平成26年9月29日(2014.9.29)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
A 6 1 B 1/00 (2006.01)	A 6 1 B 1/00 3 O O P	2 H O 4 O
A 6 1 B 1/06 (2006.01)	A 6 1 B 1/06 A	4 C 1 6 1
G O 2 B 23/26 (2006.01)	G O 2 B 23/26 B	

審査請求 未請求 請求項の数 13 O L (全 19 頁)

(21) 出願番号	特願2013-57267 (P2013-57267)	(71) 出願人	000000376
(22) 出願日	平成25年3月19日 (2013.3.19)		オリンパス株式会社
			東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号
		(74) 代理人	100108855
			弁理士 蔵田 昌俊
		(74) 代理人	100109830
			弁理士 福原 淑弘
		(74) 代理人	100088683
			弁理士 中村 誠
		(74) 代理人	100103034
			弁理士 野河 信久
		(74) 代理人	100095441
			弁理士 白根 俊郎
		(74) 代理人	100075672
			弁理士 峰 隆司

最終頁に続く

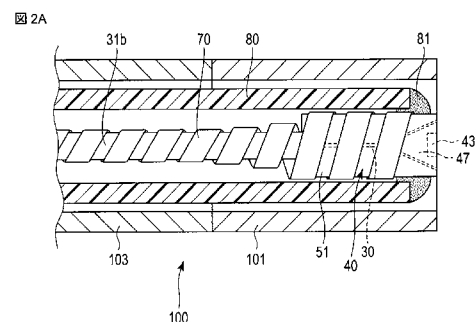
(54) 【発明の名称】 照明装置

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】熱伝導部材が湾曲によって劣化及び破損することを防止できる照明装置を提供する。

【解決手段】照明装置は、1次光を出射する光源部と、光源部と光学的に接続し、光源部から出射された1次光を導光する導光部材30と、導光部材30によって導光された1次光の光学特性を変換して照明光を生成し、照明光を出射する照明ユニット40とを有している。また照明装置は、熱伝導の方向に異方性を有し、照明ユニット40と熱的に直接接続し、導光部材30に沿って配設されている熱伝導部材70と、導光部材30と熱伝導部材70とよりも外側に配設され、熱伝導部材70を保護する保護部材80とをさらに有している。

【選択図】図2A



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

1 次光を出射する光源部と、

前記光源部と光学的に接続し、前記光源部から出射された前記 1 次光を導光する導光部材と、

前記導光部材によって導光された前記 1 次光の光学特性を変換して照明光を生成し、前記照明光を出射する照明ユニットと、

面方向の熱伝導率が厚み方向の熱伝導率よりも高くなるように熱伝導の方向に異方性を有し、前記照明ユニットと熱的に直接接続し、前記導光部材に沿って配設されている熱伝導部材と、

前記導光部材と前記熱伝導部材とよりも外側に配設され、前記熱伝導部材を保護する保護部材と、

を具備することを特徴とする照明装置。

【請求項 2】

前記照明ユニットは、

前記導光部材と光学的に接続し、前記導光部材から出射された前記 1 次光が入射する 1 次光入射部と、

前記 1 次光入射部から離間して配設され、前記 1 次光入射部から入射された前記 1 次光を照射されることによって、前記 1 次光の前記光学特性を変換し、前記 1 次光とは異なる前記照明光を生成する光変換部材と、

前記光変換部材によって生成された前記照明光を前記照明ユニットの外部に出射する 2 次光出射部と、

前記 1 次光入射部を有し、前記 1 次光と前記 2 次光とが透過するように、前記 1 次光入射部と前記光変換部材との間に配設され、さらに前記 1 次光入射部から前記 2 次光出射部の側方まで少なくとも一部が連続して配設されている光透過部材と、

前記 1 次光入射部と前記光変換部材と前記 2 次光出射部とを含む前記光透過部材と前記導光部材とを保持する保持部と、

を有することを特徴とする請求項 1 に記載の照明装置。

【請求項 3】

筒形状を有し、前記導光部材の外側に配設されており、前記導光部材が挿通するように前記導光部材を囲い、前記導光部材と熱的に接続しているカバー部材をさらに具備し、

前記熱伝導部材は、前記カバー部材よりも外側に配設されていることを特徴とする請求項 2 に記載の照明装置。

【請求項 4】

前記保護部材は、柔軟性を有しており、

前記熱伝導部材に対向する保護部材の対向面は、平滑に形成されていることを特徴とする請求項 3 に記載の照明装置。

【請求項 5】

前記保護部材は、筒形状を有しており、

前記カバー部材を含む前記導光部材と前記熱伝導部材とが保護部材に挿入され、前記照明ユニットの前記 2 次光出射部が外部に露出するように、前記保護部材は前記導光部材と前記熱伝導部材と前記照明ユニットとを囲うことを特徴とする請求項 3 に記載の照明装置。

【請求項 6】

前記保護部材の先端部は、前記照明ユニットに接着されていることを特徴とする請求項 5 に記載の照明装置。

【請求項 7】

前記カバー部材は、前記照明ユニットに接着されていることを特徴とする請求項 3 に記載の照明装置。

【請求項 8】

前記照明ユニットと前記熱伝導部材と前記保護部材とは、内視鏡挿入部の先端部において、前記先端部に配設されている先端硬質部に内蔵されていることを特徴とする請求項 3 に記載の照明装置。

【請求項 9】

前記保護部材の基端部は、前記カバー部材に接着されていることを特徴とする請求項 3 に記載の照明装置。

【請求項 10】

前記保護部材は、内視鏡挿入部の湾曲部に内蔵されていることを特徴とする請求項 3 に記載の照明装置。

【請求項 11】

前記熱伝導部材は、少なくとも前記カバー部材の一部に接着されていることを特徴とする請求項 3 に記載の照明装置。

【請求項 12】

前記熱伝導部材と前記保護部材とは、シート形状を有しており、

前記熱伝導部材は、前記保護部材によって覆われていることを特徴とする請求項 3 に記載の照明装置。

【請求項 13】

前記保護部材は、前記保護部材の厚み方向において、前記保護部材を貫通している貫通口部を有していることを特徴とする請求項 1 に記載の照明装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、放熱性に優れた照明ユニットを有する照明装置に関する。

【背景技術】

【0002】

一般的に、照明装置は、例えば、小型な精密機器に配設されている。この小型な精密機器は、例えば、医療用内視鏡の挿入部、工業用内視鏡の挿入部、マニピレータ、カテーテルなどの細長い部材である。照明装置は、照明光を照明する照明ユニットを有している。

照明ユニットは、観察対象物に照明光を照明し、照明に伴い発熱する。この発熱量は、光電変換の損失のため発光光量に比例して、増加する。この熱は、例えば照明ユニットの寿命や、光量の低下に影響を与える。

【0003】

この熱の影響を抑えるために、例えば、特許文献 1 が開示されている。特許文献 1 では、熱伝導部材が利用されている。熱伝導部材は、例えば、熱異方性を有するシート状の部材である。この部材は、例えば、グラフィートシートである。

このような熱伝導部材は、挿入部の内部に配設されており、挿入部の先端部から挿入部の基端部まで配設されている。特に、熱伝導部材の一端部は、挿入部の先端部に配設されている照明ユニットに取り付けられている。この照明ユニットは、発熱部である。また熱伝導部材の他端部は、挿入部の基端部側に配設されている。熱伝導部材は挿入部の基端部に向かって熱を伝導しており、発熱部である照明ユニットが冷却される。

【0004】

なお、熱伝導部材以外にも、内蔵物が、挿入部の内部に配設されており、挿入部の先端部から挿入部の基端部まで配設されている。内蔵物は、例えば照明ユニットの電氣的な照明ケーブルや、撮像ケーブルの電氣的な撮像ケーブルや、送気・送水チューブなどを示す。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献 1】特開 2009 - 56107 号公報

10

20

30

40

50

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

特許文献1において、前記したように、熱伝導部材と内蔵物とは、挿入部の内部に配設されており、挿入部の先端部から挿入部の基端部まで配設されている。また熱伝導部材は、むき出しで配設されている。

【0007】

このため、湾曲部を含む挿入部が湾曲すると、熱伝導部材は、挿入部の内周面に当接及び干渉し、さらに内蔵物と当接及び干渉する。これにより、熱伝導部材は、劣化及び破損する虞が生じる。

10

【0008】

本発明は、これらの事情に鑑みてなされたものであり、熱伝導部材が湾曲によって劣化及び破損することを防止できる照明装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0009】

本発明は目的を達成するために、1次光を出射する光源部と、前記光源部と光学的に接続し、前記光源部から出射された前記1次光を導光する導光部材と、前記導光部材によって導光された前記1次光の光学特性を変換して照明光を生成し、前記照明光を出射する照明ユニットと、面方向の熱伝導率が厚み方向の熱伝導率よりも高くなるように熱伝導の方向に異方性を有し、前記照明ユニットと熱的に直接接続し、前記導光部材に沿って配設されている熱伝導部材と、前記導光部材と前記熱伝導部材とよりも外側に配設され、前記熱伝導部材を保護する保護部材とを具備することを特徴とする照明装置を提供する。

20

【発明の効果】

【0010】

本発明によれば、熱伝導部材が湾曲によって劣化及び破損することを防止できる照明装置を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0011】

【図1】図1は、本発明に係る照明装置の概略構成図である。

【図2A】図2Aは、第1の実施形態における導光部材と照明ユニットと熱伝導部材と保護部材との構成を示す図である。

30

【図2B】図2Bは、図2Aに示す構成の概略断面図である。

【図3A】図3Aは、第2の実施形態における導光部材と照明ユニットと熱伝導部材と保護部材との構成との概略断面図である。

【図3B】図3Bは、第2の実施形態の変形例における概略断面図である。

【図4】図4は、第3の実施形態における導光部材と照明ユニットと熱伝導部材と保護部材との構成を示す図である。

【図5】図5は、第4の実施形態における導光部材と照明ユニットと熱伝導部材と保護部材との構成を示す図である。

【図6】図6は、第5の実施形態における照明ユニットと保護部材との構成を示す図である。

40

【発明を実施するための形態】

【0012】

以下、図面を参照して本発明の実施形態について詳細に説明する。

[第1の実施形態]

[構成]

図1と図2Aと図2Bとを参照して第1の実施形態について説明する。なお一部の図面では、図示の明瞭化のために、部材の図示を省略している。

また以下において、1次光出射部30aが出射する1次光の中心軸を光軸11と称する。

50

また光軸 11 方向において、導光部材 30 側を後方と称し、光変換部材 43 側を前方と称し、光軸 11 に直交する方向を側方と称する。

【0013】

[照明装置 10 の構成 1]

図 1 に示すように、照明装置 10 は、1 次光を出射する光源部 20 と、光源部 20 と光学的に接続し、光源部 20 から出射された 1 次光を導光する導光部材 30 と、導光部材 30 によって導光された 1 次光の光学特性を変換して照明光を生成し、照明光を出射する照明ユニット 40 とを有している。

照明装置 10 において、導光部材 30 と照明ユニット 40 とは、例えば、図示しない小型な精密機器の内部に配設される。この小型な精密機器は、例えば、医療用内視鏡の挿入部、工業用内視鏡の挿入部、マニピレータ、カテーテルなどの細長い部材である。

【0014】

[光源部 20]

図 1 に示すような光源部 20 は、例えば、波長が例えば 400 nm 付近の青紫色のレーザー光である 1 次光を出射する半導体レーザを有している。光源部 20 は、小型な精密機器、例えば内視鏡とは別体である。なお光源部 20 は、例えば内視鏡の内部といったように、精密機器の内部に配設されていてもよい。

【0015】

[導光部材 30]

図 1 に示すような導光部材 30 は、例えば、内視鏡の内部に配設されている。導光部材 30 は、図示しない内視鏡の接続コネクタからユニバーサルコードと把持部と本体部とを介して、図 2 A と図 2 B とに示すように例えば内視鏡の挿入部 100 の先端部にまで配設されている。導光部材 30 は、接続コネクタが光源部 20 と接続することによって、光源部 20 と光学的に接続する。

【0016】

図 2 B に示すように、導光部材 30 は、導光部材 30 の先端部に配設され、照明ユニット 40 と光学的に接続し、1 次光が出射する 1 次光出射部 30 a を有している。1 次光出射部 30 a を含む導光部材 30 の先端部は、後述するカバー部材 31 a とカバー部材 31 b とから露出している。

【0017】

導光部材 30 は、例えば、柔軟性と可撓性と伸縮性とを有している。また導光部材 30 は、湾曲可能で、細長い円柱形状を有している。導光部材 30 は、1 次光を効率よく導光する光学特性を有しており、例えばガラスやプラスチックなどによって形成されている。導光部材 30 は、例えばマルチファイバーモードの光ファイバである。導光部材 30 は、1 次光が大きなエネルギーロスなく前方に向けて出射されるように、1 次光を高効率に前方に導光する光学特性を有している。

【0018】

また図 2 B に示すように、導光部材 30 は、筒形状、例えば円筒形状のジャケットなどのカバー部材 31 a によってカバーされている。カバー部材 31 a は、導光部材 30 の外側に配設されている。そして、カバー部材 31 a は、導光部材 30 がカバー部材 31 a を挿通するように、導光部材 30 に積層して導光部材 30 を全周に渡って囲っている。カバー部材 31 a は、導光部材 30 の先端部がカバー部材 31 a から突出して露出するように、導光部材 30 の先端部を除いて、導光部材 30 を全長に渡ってカバーする。カバー部材 31 a は、導光部材 30 と熱的に接続している。

【0019】

また図 2 B に示すように、このカバー部材 31 a は、さらに、筒形状、例えば円筒形状のカバー部材 31 b によってカバーされている。カバー部材 31 b は、導光部材 30 を含むカバー部材 31 a の外側に配設されている。そしてカバー部材 31 b は、導光部材 30 を含むカバー部材 31 a がカバー部材 31 b を挿通するように、カバー部材 31 a に積層してカバー部材 31 a を全周に渡って囲っている。カバー部材 31 b は、導光部材 30 の

10

20

30

40

50

先端部がカバー部材 3 1 b から突出して露出するように、導光部材 3 0 の先端部を除いて、カバー部材 3 1 a を全長に渡ってカバーする。カバー部材 3 1 b は、カバー部材 3 1 a と熱的に接続し、カバー部材 3 1 a を介して導光部材 3 0 と熱的に接続している。カバー部材 3 1 b は、例えば、熱可塑性のポリエステルエラストマーなどによって形成されている。

【 0 0 2 0 】

カバー部材 3 1 a , 3 1 b は、例えば、柔軟性と可撓性と伸縮性とを有している。

【 0 0 2 1 】

[照明ユニット 4 0]

図 2 A と図 2 B とに示すような照明ユニット 4 0 は、観察対象物に照明光を照明し、照明に伴い発熱する。このように照明ユニット 4 0 は、発熱する発熱部として機能する。この発熱量は、光電変換の損失のため発光光量に比例して、増加する。この熱は、例えば照明ユニット 4 0 の寿命や、光量の低下に影響を与える。照明ユニット 4 0 は、内視鏡の挿入部 1 0 0 の先端部において、先端部に配設されている先端硬質部 1 0 1 に内蔵されている。

10

【 0 0 2 2 】

図 2 B に示すように、照明ユニット 4 0 は、導光部材 3 0 の 1 次光出射部 3 0 a と光学的に接続し、1 次光出射部 3 0 a から出射された 1 次光が入射する 1 次光入射部 4 1 と、1 次光入射部 4 1 から離間して配設され、1 次光入射部 4 1 から入射された 1 次光を照射されることによって、1 次光の光学特性を変換し、1 次光とは異なる照明光としての 2 次光を生成する光変換部材 4 3 と、光変換部材 4 3 によって生成された 2 次光を照明ユニット 4 0 の外部に出射する 2 次光出射部 4 5 とを有している。

20

また図 2 B に示すように、照明ユニット 4 0 は、1 次光入射部 4 1 を有し、1 次光と 2 次光とが透過するように、1 次光入射部 4 1 と光変換部材 4 3 との間に配設され、さらに 1 次光入射部 4 1 から 2 次光出射部 4 5 の側方まで少なくとも一部が連続して配設されている光透過部材 4 7 をさらに有している。

また図 2 B に示すように、照明ユニット 4 0 は、光透過部材 4 7 の周面 4 7 c に配設され、光変換部材 4 3 から反射部材 4 9 に向かって出射された 2 次光を前方である前面 4 7 b に向かって反射する反射部材 4 9 と、1 次光入射部 4 1 と光変換部材 4 3 と 2 次光出射部 4 5 と反射部材 4 9 とを含む光透過部材 4 7 と導光部材 3 0 とを保持する保持部 5 1 とをさらに有している。

30

図 2 B に示すように、照明ユニット 4 0 に含まれるこれら部材は、光軸 1 1 を中心軸として同心円状の形状を有し、光軸 1 1 を中心に回転対称に配設されている。

【 0 0 2 3 】

[1 次光入射部 4 1]

図 2 B に示すように、1 次光入射部 4 1 は、1 次光出射部 3 0 a が当接する光透過部材 4 7 の後面 4 7 a の一部分に形成される。より詳細には、光透過部材 4 7 において、1 次光出射部 3 0 a が光学的に接続した後面 4 7 a の一部分が 1 次光入射部 4 1 として形成される。この後面 4 7 a は、光軸 1 1 方向において、例えば光透過部材 4 7 の最も後方に配設されている平面を示す。1 次光入射部 4 1 と後面 4 7 a とは、光軸 1 1 に対して直交して配設される。1 次光入射部 4 1 の中心軸は、光軸 1 1 上に配設され、光透過部材 4 7 の中心軸上に形成される。1 次光入射部 4 1 は、1 次光出射部 3 0 a (光ファイバのコアの直径) と略同一の形状と面積とを有している。1 次光入射部 4 1 は、2 次光出射部 4 5 よりも小さい。

40

【 0 0 2 4 】

[光変換部材 4 3]

光変換部材 4 3 は、例えば、1 次光を吸収して、吸収した 1 次光の波長を変えずに配光特性を変換して、配光特性が変換された 2 次光を生成する。このように光変換部材 4 3 は、1 次光の配光を変換する配光変換部材であり、1 次光を照射されることで機能する光学部材である。なお光変換部材 4 3 は、1 次光の波長を所望に変換する波長変換部材として

50

機能してもよい。また光変換部材 43 は、1 次光の放射角を所望に変換する放射角変換部材として機能してもよい。光変換部材 43 は、例えば蛍光体を有している。例えば白色の照明光が出射される場合、光変換部材 43 は何種類かの粉末状の蛍光体と光学的に透明な樹脂とによって形成される。このとき、何種類かの粉末状の蛍光体は互いに組み合わせさせた状態で樹脂に分散され、この状態で樹脂が固化されることで、光変換部材 43 は成形される。例えば、粉末状の蛍光体の平均粒径は略 8 μm であり、樹脂は光学的に透明なシリコン樹脂であり、樹脂に対する粉末蛍光体の濃度は 5 w t % である。

【0025】

図 2 B に示すように、光変換部材 43 は、略全ての 1 次光を照射されるように、1 次光出射部 30 a と対向し、さらに 1 次光出射部 30 a よりも前方に配設されている。光変換部材 43 は、光変換部材 43 の中心軸が光軸 11 上に配設されるように、配設される。

10

【0026】

図 2 B に示すように、光変換部材 43 は、例えば円柱形状を有している。このため光変換部材 43 は、1 次光出射部 30 a 及び 1 次光入射部 41 と対向する円形の後面 43 a と、後面 43 a よりも前方に配設されている円形の前面 43 b と、後面 43 a と前面 43 b との間に配設されている曲面状の周面 43 c とを有している。なお光変換部材 43 は、例えば円板形状を有していてもよい。

【0027】

図 2 B に示すように、後面 43 a と前面 43 b とは、光軸 11 に対して直交して配設されている平面である。後面 43 a と前面 43 b とにおいて、これらの中心軸は、光軸 11 上に配設されている。

20

【0028】

図 2 B に示すように、後面 43 a は、1 次光出射部 30 a から離間して配設されている。詳細には、後面 43 a に形成される 1 次光のビームスポットが後面 43 a よりも小さく形成されるように、後面 43 a は 1 次光出射部 30 a 及び 1 次光入射部 41 から離間して配設されている。後面 43 a は、1 次光を照射される照射面として機能する。

【0029】

周面 43 c は、反射部材 49 から離間して配設されている。

【0030】

前面 43 b は、光透過部材 47 の前面 47 b と同一平面上に配設されている。前面 43 b は、2 次光出射部 45 として機能する。

30

【0031】

なお光変換部材 43 の厚みと、前記した濃度とは、光変換部材 43 が 1 次光をどの程度 2 次光に変換するかによって、所望に設定される。

【0032】

[2 次光出射部 45]

図 2 B に示すように、2 次光出射部 45 は、光変換部材 43 の前面 43 b として機能する。2 次光出射部 45 は、例えば、円形状を有している。2 次光出射部 45 は、2 次光を照明光として出射する。

【0033】

40

[光透過部材 47]

図 2 B に示すように、光透過部材 47 は、1 次光出射部 30 a と光学的に接続し、1 次光出射部 30 a から出射された 1 次光が入射する 1 次光入射部 41 を有する後面 47 a と、2 次光を出射する 2 次光出射部 45 が配設される前面 47 b とを有している。1 次光入射部 41 を含む後面 47 a と、2 次光出射部 45 が配設される前面 47 b とは、光軸 11 に対して直交して配設されている平面である。このような光透過部材 47 は、光軸 11 方向において、後面 47 a から前面 47 b に向かって拡径する例えば円錐台形状を有している。

【0034】

また光透過部材 47 は、例えば、光変換部材 43 の中心軸と光透過部材 47 の中心軸と

50

が光軸 1 1 上に配設され、光変換部材 4 3 が 1 次光出射部 3 0 a と後面 4 7 a とから離間し、1 次光のビームスポットが光変換部材 4 3 の後面 4 3 a よりも小さくなり、前面 4 3 b が前面 4 7 b と同一平面に配設され、光透過部材 4 7 が前面 4 3 b と周面 4 3 c とを覆うように、光変換部材 4 3 を有している。

【0035】

前面 4 7 b において、前面 4 3 b を除く前面 4 7 b の領域は、前面 4 3 b の側方に配設されており、リング形状を有している。

【0036】

光透過部材 4 7 において、1 次光と 2 次光とが透過する。このため光透過部材 4 7 は、1 次光出射部 3 0 a から出射された 1 次光と光変換部材 4 3 から出射した 2 次光とが透過する部材によって、形成されている。このような部材は、例えば、1 次光と 2 次光とに対して透過率の高い光学的に透明な部材によって形成されている。この部材は、例えば、シリコン樹脂やガラスや石英ガラスなどを示す。

【0037】

なお光透過部材 4 7 は、光変換部材 4 3 が 2 次光を生成する際に発生する熱を外部に放出する部材によって、形成されてもよい。このような部材は、例えば、ガラスや、ガラス系の樹脂などを示す。

【0038】

[反射部材 4 9]

図 2 B に示すような反射部材 4 9 は、光変換部材 4 3 が出射する 2 次光において、光変換部材 4 3 の後面 4 3 a と周面 4 3 c とから反射部材 4 9 に向けて出射された 2 次光が前面 4 7 b を介して前方に向かうように、2 次光の進行方向を変換する。これにより反射部材 4 9 は、2 次光の放射角を制御することとなる。

【0039】

反射部材 4 9 は、光軸 1 1 方向において配設されている後面 4 7 a と前面 4 7 b との間の領域において、この領域を囲うように配設されている。詳細には、反射部材 4 9 は、光変換部材 4 3 を囲うように、1 次光入射部 4 1 と 2 次光出射部 4 5 と後面 4 7 a と前面 4 7 b とを除く光透過部材 4 7 の周面 4 7 c 全体に配設されている。このため、反射部材 4 9 は、光透過部材 4 7 によって、光変換部材 4 3 に対して離間して配設される。

【0040】

反射部材 4 9 は、例えば、銀やアルミといった金属等の膜が成膜することによって、形成されている。または反射部材 4 9 は、複数誘電体の膜が多層化することによって、形成されても良い。なお反射部材 4 9 は、後述する保持部 5 1 の内周面に成膜されていても良い。

【0041】

[保持部 5 1]

図 2 B に示すような保持部 5 1 は、例えばセラミックやステンレスやジルコニアやニッケルや真鍮などによって形成されている。保持部 5 1 は、例えば円柱形状を有している。

【0042】

保持部 5 1 は、反射部材 4 9 を含む光透過部材 4 7 が嵌め込まれる第 1 の中空部 5 3 を有している。このため例えば、第 1 の中空部 5 3 は、光軸 1 1 方向において後方から前方に向かって拡径する円錐台形状を有している。第 1 の中空部 5 3 は、例えば、1 次光の広がり角度よりも大きい広がり角度を有している。光軸 1 1 方向において、第 1 の中空部 5 3 の中心軸は、光軸 1 1 に一致する。

【0043】

図 2 B に示すように、保持部 5 1 は、保持部 5 1 の後面側に配設されている入射開口部 5 3 a と、保持部 5 1 の前面側に配設されている出射開口部 5 3 b とを有している。入射開口部 5 3 a は、1 次光が 1 次光出射部 3 0 a から 1 次光入射部 4 1 に入射するように、光透過部材 4 7 の後面 4 7 a と嵌合する。入射開口部 5 3 a は、1 次光出射部 3 0 a よりも大きく、出射開口部 5 3 b よりも小さい。出射開口部 5 3 b は、2 次光が出射するよう

に光透過部材 4 7 の前面 4 7 b と嵌合する。

【 0 0 4 4 】

そして、光軸 1 1 方向における保持部 5 1 (第 1 の中空部 5 3) の中心軸が光透過部材 4 7 の中心軸と光変換部材 4 3 の中心軸とに一致し、光透過部材 4 7 の後面 4 7 a が入射開口部 5 3 a に嵌合し、光透過部材 4 7 の前面 4 7 b が出射開口部 5 3 b に嵌合するように、光透過部材 4 7 が第 1 の中空部 5 3 に嵌め込まれる。言い換えると、光透過部材 4 7 は、第 1 の中空部 5 3 に充填される。このとき、光透過部材 4 7 の前面 4 7 b は保持部 5 1 の前面と同一平面上に配設される。

【 0 0 4 5 】

このように、保持部 5 1 は、1 次光入射部 4 1 と 2 次光出射部 4 5 とを保持するために、後面 4 7 a と嵌合する入射開口部 5 3 a と、前面 4 7 b と嵌合する出射開口部 5 3 b と、光軸 1 1 方向において入射開口部 5 3 a 側から出射開口部 5 3 b 側まで連続した第 1 の中空部 5 3 とを有している。

【 0 0 4 6 】

そしてこの場合、図 2 B に示すように、光変換部材 4 3 は、1 次光出射部 3 0 a と 1 次光入射部 4 1 とから離間して、さらに 1 次光出射部 3 0 a と 1 次光入射部 4 1 とよりも前方に配設され、反射部材 4 9 によって覆われるように、第 1 の中空部 5 3 に配設されている。詳細には、光透過部材 4 7 は第 1 の中空部 5 3 に嵌合し、光変換部材 4 3 は光透過部材 4 7 によって保持されている。

【 0 0 4 7 】

また保持部 5 1 は、カバー部材 3 1 a とカバー部材 3 1 b とから露出している導光部材 3 0 の先端部が配設される第 2 の中空部 5 5 を有している。第 2 の中空部 5 5 は、例えば円柱形状を有している。第 2 の中空部 5 5 の直径は、導光部材 3 0 の直径と略同、またはこれによりも微小に大きい。また例えば、光軸 1 1 方向において、第 2 の中空部 5 5 の中心軸は、光軸 1 1 に一致する。また第 2 の中空部 5 5 は、光軸 1 1 方向において、第 1 の中空部 5 3 と連通している。第 2 の中空部 5 5 は、光軸 1 1 方向において、第 1 の中空部 5 3 よりも保持部 5 1 の基端部側に配設されており、第 1 の中空部 5 3 よりも前方から離れて配設されている。

【 0 0 4 8 】

また保持部 5 1 は、第 2 の中空部 5 5 と連通し、導光部材 3 0 の先端部が第 2 の中空部 5 5 に挿入されるように、導光部材 3 0 の先端部を第 2 の中空部 5 5 にガイドするガイド口 5 7 を有している。ガイド口 5 7 は、保持部 5 1 の端面から第 2 の中空部 5 5 に向かって縮径している円錐台形状を有しており、傾斜しているテーパとなっている。なお前述したカバー部材 3 1 a , 3 1 b は、ガイド口 5 7 付近にまで配設されているのみであり、第 2 の中空部 5 5 には挿入されない。

【 0 0 4 9 】

ガイド口 5 7 には、カバー部材 3 1 a , 3 1 b を含む導光部材 3 0 を保持部 5 1 に接着する接着部材 5 9 が配設される。接着部材 5 9 は、例えば、光学用の接着剤や、シリコンやエポキシ等の接着剤などである。

【 0 0 5 0 】

保持部 5 1 の直径は、カバー部材 3 1 a , 3 1 b の直径よりも小さい。

【 0 0 5 1 】

[照明装置 1 0 の構成 2]

また図 2 A と図 2 B とに示すように、照明装置 1 0 は、熱伝導の方向に異方性を有し、照明ユニット 4 0 と熱的に直接接続し、導光部材 3 0 に沿って配設されている熱伝導部材 7 0 と、導光部材 3 0 と熱伝導部材 7 0 とよりも外側に配設され、熱伝導部材 7 0 を保護する保護部材 8 0 とをさらに有している。

照明装置 1 0 において、熱伝導部材 7 0 と保護部材 8 0 とは、前記同様に、小型な精密機器の内部に配設される。精密機器における例えば挿入部 1 0 0 は、挿入部 1 0 0 の最も先端部に配設されている先端硬質部 1 0 1 と、先端硬質部 1 0 1 の基端部と連結し、湾曲

10

20

30

40

50

する湾曲部 103 とを有している。熱伝導部材 70 と保護部材 80 とは、先端硬質部 101 と湾曲部 103 とを含む内視鏡に内蔵されている。

【0052】

[熱伝導部材 70]

熱伝導部材 70 は、例えば、熱異方性を有する帯状の部材である。熱伝導部材 70 において、面方向（軸方向）の熱伝導率は、厚み方向の熱伝導率よりも高い。このため、熱は、厚み方向よりも平面方向に伝達される。熱伝導部材 70 は、例えば、グラファイトシートによって形成されている。

【0053】

図 2 A に示すように、帯状の熱伝導部材 70 は、カバー部材 31b と照明ユニット 40 とを螺旋状に囲うように、配設されている。つまり熱伝導部材 70 は、カバー部材 31b の中心軸と照明ユニット 40 の中心軸とを螺旋状に巻回するように、カバー部材 31b と照明ユニット 40 とを囲っている。

【0054】

図 2 A に示すように、熱伝導部材 70 は、導光部材 30 に沿って後方に延びている。詳細には、熱伝導部材 70 は、カバー部材 31b を螺旋状に囲った状態で、導光部材 30 の基端部まで延設されている。このように熱伝導部材 70 は、カバー部材 31b の外側に配設されている。カバー部材 31b を螺旋状に囲う熱伝導部材 70 において、囲っている部分はカバー部材 31b に対して非接着及び非固定となっている。この場合、カバー部材 31b を螺旋状に囲う熱伝導部材 70 において、熱伝導部材 70 は、熱伝導部材 70 の内径がカバー部材 31b の外径と略同一となることによってカバー部材 31b に接触していてもよいし、熱伝導部材 70 の内径がカバー部材 31b の外径よりも大きくなることによってカバー部材 31b に非接触となってもよい。よって、螺旋状に配設され非接着状態の熱伝導部材 70 の基端部側は、導光部材 30 に沿って伸縮自在となっている。また熱伝導部材 70 は、挿入部 100 が湾曲することに伴い、カバー部材 31b に当接することも可能である。

【0055】

図 2 A と図 2 B とに示すように、前記に対して熱伝導部材 70 の先端部において、先端部の内周面は、照明ユニット 40、例えば保持部 51 の外周面に、接着部材 71 によって接着されている。詳細には、保持部 51 を螺旋状に囲う熱伝導部材 70 において、囲っている部分全体が保持部 51 の外周面に接着されていることが好適である。つまり接着部材 71 は、熱伝導部材 70 の先端部が保持部 51 に接着固定されるために、先端部の内周面と保持部 51 の外周面との間に介在している。なお熱伝導部材 70 の先端は、照明ユニット 40 の前方、例えば光変換部材 43 の側方に位置決めされることが好適である。このように熱伝導部材 70 の先端部は、保持部 51 を螺旋状に囲った状態で、接着されている。

【0056】

接着部材 71 は、熱伝導性を有している。接着部材 71 は、例えば、シリコンやエポキシ等の接着剤などである。

【0057】

前記によって、熱伝導部材 70 は、発熱部として機能する照明ユニット 40 に直接接着されており、機械的及び熱的に照明ユニット 40 に直接接続することとなる。また熱伝導部材 70 は、カバー部材 31b を囲うため、熱的にカバー部材 31b 及び導光部材 30 に接続することとなる。熱伝導部材 70 は、カバー部材 31b と接触することで熱的にカバー部材 31b に直接接続し、カバー部材 31b と非接触することで熱的にカバー部材に間接的に接続することとなる。

【0058】

[保護部材 80]

図 2 A と図 2 B とに示すように、保護部材 80 は、筒形状、例えば円筒形状を有している。保護部材 80 は、カバー部材 31a、31b を含む導光部材 30 と熱伝導部材 70 とが保護部材 80 に挿入され、照明ユニット 40 の 2 次光出射部 45 が外部に露出するよう

に、導光部材 30 と熱伝導部材 70 と照明ユニット 40 とを筒状に囲っている。これにより保護部材 80 は、例えば挿入部 100 が湾曲した際に、例えば挿入部 100 の内周面が導光部材 30 と照明ユニット 40 と熱伝導部材 70 とに接触及び干渉することを防止し、例えば挿入部 100 の内周面が接触及び干渉によってこれらを傷つけることを防止する。挿入部 100 の内周面は、例えば先端硬質部 101 の内周面と湾曲部 103 の内周面とを示す。また保護部材 80 は、例えば挿入部 100 が湾曲した際に、例えば挿入部 100 に内蔵されている内蔵物が導光部材 30 と照明ユニット 40 と熱伝導部材 70 とに接触及び干渉することを防止し、内蔵物が接触及び干渉によってこれらを傷つけることを防止する。内蔵物は、例えば操作ワイヤや撮像ユニットの撮像ケーブルなどを示す。

【0059】

10

保護部材 80 は、柔軟性と可撓性と伸縮性とを有している。保護部材 80 は、例えば PTFE 等によって形成されている。

【0060】

また図 2A に示すように、保護部材 80 の内周面が熱伝導部材 70 の外周面と非当接するように、保護部材 80 の内径は、熱伝導部材 70 の外径と保持部 51 の外径とよりも大きい。保護部材 80 の内周面は、熱伝導部材 70 の外周面と対向する対向面である。この内周面は、挿入部 100 が湾曲することに伴い保護部材 80 が湾曲した際に、内周面が外周面と接触することによって外周面を傷つけることを防止するために、平滑に形成されている。

【0061】

20

保護部材 80 は、前記した保護のために、熱伝導部材 70 等よりも長い。図 2A に示すように、保護部材 80 は、導光部材 30 に沿って後方に延びている。詳細には、保護部材 80 は、カバー部材 31b と熱伝導部材 70 と照明ユニット 40 とを全周に渡って筒状に囲った状態で、導光部材 30 の基端部まで延設されている。カバー部材 31b と熱伝導部材 70 と筒状に囲う保護部材 80 の基端部側において、囲っている部分はカバー部材 31b と熱伝導部材 70 とに対して非接着となっている。この場合、カバー部材 31b と熱伝導部材 70 とを筒状に囲う保護部材 80 において、保護部材 80 は、保護部材 80 の内径がカバー部材 31b の外径と略同一となることによってカバー部材 31b と熱伝導部材 70 とに接触していてもよいし、保護部材 80 の内径がカバー部材 31b の外径よりも大きくなることによってカバー部材 31b と熱伝導部材 70 とに非接触となってもよい。また保護部材 80 は、挿入部 100 が湾曲することに伴い、カバー部材 31b と熱伝導部材 70 とに当接することも可能である。

30

【0062】

図 2A に示すように、前記に対して、保護部材 80 の先端部は、照明ユニット 40、例えば保持部 51 の外周面に、接着部材 81 によって接着されている。詳細には、前記したように保護部材 80 が熱伝導部材 70 を保護するために、保護部材 80 の先端部は、熱伝導部材 70 の先端部よりも前方において接着されている。

【0063】

接着部材 81 は、例えば、シリコンやエポキシ等の接着剤などである。

【0064】

40

これにより保護部材 80 は、発熱部として機能する照明ユニット 40 に直接接着されており、機械的及び熱的に照明ユニット 40 に直接接続することとなる。

【0065】

[作用]

1 次光は、光源部 20 から出射され、導光部材 30 によって導光される。そして 1 次光は、1 次光出射部 30a から出射されて 1 次光入射部 41 に入射され、光透過部材 47 を透過する。1 次光は、光変換部材 43 によって照明光に変換される。照明光の一部は、2 次光出射部 45 から外部に向けて出射される。照明光の他部は、光変換部材 43 から光透過部材 47 に向けて進行し、反射部材 49 によって反射される。そして照明光の他部は、前面 47b から外部に向けて出射される。

50

【 0 0 6 6 】

前記のように、照明ユニット 4 0 が照明光を出射すると、発熱部である照明ユニット 4 0 は、発熱する。

【 0 0 6 7 】

図 2 A に示すように、発熱する照明ユニット 4 0 において、熱伝導部材 7 0 は、保持部 5 1 と熱的に接続している。このため熱は保持部 5 1 から熱伝導部材 7 0 に伝達される。また、帯状の熱伝導部材 7 0 が保持部 5 1 と熱的に接続している場合に比べて、本実施形態では熱伝導部材 7 0 が照明ユニット 4 0 を螺旋状に囲った状態で保持部 5 1 と熱的に接続しているため、保持部 5 1 に対する熱伝導部材 7 0 の伝達面積は広くなる。よって熱は、効率よく保持部 5 1 から熱伝導部材 7 0 に伝達される。

10

【 0 0 6 8 】

また発熱する照明ユニット 4 0 において、光変換部材 4 3 が最も発熱する。図 2 A と図 2 B とに示すように、熱伝導部材 7 0 の先端は光変換部材 4 3 の側方に位置決めされているため、熱は効率よく保持部 5 1 から熱伝導部材 7 0 に伝達される。

【 0 0 6 9 】

また熱伝導部材 7 0 において、面方向の熱伝導率は、厚み方向の熱伝導率よりも高い。また図 2 A と図 2 B とに示すように、熱伝導部材 7 0 は、導光部材 3 0 の基端部まで延設されている。このため、熱は、厚み方向よりも平面方向に伝達される。そして熱は、後方に伝達され、照明ユニット 4 0 は効率よく冷却される。

【 0 0 7 0 】

20

図 2 A と図 2 B とに示すように、保護部材 8 0 は、円筒形状を有しており、導光部材 3 0 と照明ユニット 4 0 と熱伝導部材 7 0 とを全周に渡って筒状に囲っている。これにより保護部材 8 0 は、例えば挿入部 1 0 0 が湾曲した際に、例えば挿入部 1 0 0 の内周面が導光部材 3 0 と照明ユニット 4 0 と熱伝導部材 7 0 とに接触及び干渉することを防止し、例えば挿入部 1 0 0 の内周面が接触及び干渉によってこれらを傷つけることを防止する。また保護部材 8 0 は、例えば挿入部 1 0 0 が湾曲した際に、例えば挿入部 1 0 0 に内蔵されている内蔵物が導光部材 3 0 と照明ユニット 4 0 と熱伝導部材 7 0 とに接触及び干渉することを防止し、例えば内蔵物が接触及び干渉によってこれらを傷つけることを防止する。これにより、導光部材 3 0 と照明ユニット 4 0 と熱伝導部材 7 0 とにおいて、湾曲によって劣化及び破損することが防止される。

30

【 0 0 7 1 】

またカバー部材 3 1 b は、挿入部 1 0 0 が湾曲した際に、導光部材 3 0 が座屈することを防止し、導光部材 3 0 が折れることを防止する。また熱伝導部材 7 0 は、カバー部材 3 1 b を囲うため、熱的にカバー部材 3 1 a , 3 1 b を介して導光部材 3 0 と接続する。よって熱伝導部材 7 0 は、導光部材 3 0 から発生した熱も後方に伝達する。

【 0 0 7 2 】

保護部材 8 0 の内周面は、平滑に形成されている。これにより、挿入部 1 0 0 が湾曲することに伴い保護部材 8 0 が湾曲した際に、保護部材 8 0 の内周面が熱伝導部材 7 0 の外周面と接触することによって、熱伝導部材 7 0 の外周面を傷つけることが防止される。また挿入部 1 0 0 が湾曲し、保護部材 8 0 の内周面が熱伝導部材 7 0 の外周面に当接しても、熱伝導部材 7 0 は保護部材 8 0 に対して摩耗することなく滑らかに摺動する。湾曲部 1 0 3 を含む挿入部 1 0 0 が湾曲しにくくなることが防止され、湾曲性能が低下することが防止される。

40

【 0 0 7 3 】

また図 2 A に示すように、保護部材 8 0 の先端部は、照明ユニット 4 0 の保持部 5 1 の外周面に接着されている。よって挿入部 1 0 0 が湾曲しても、保護部材 8 0 の位置ずれは防止される。

【 0 0 7 4 】

〔 効果 〕

このように本実施形態では、保護部材 8 0 によって、導光部材 3 0 と照明ユニット 4 0

50

と熱伝導部材 70 とが挿入部 100 に内蔵されていても、導光部材 30 と照明ユニット 40 と熱伝導部材 70 とが湾曲によって劣化及び破損することを防止できる。

【0075】

また本実施形態では、熱伝導部材 70 は、発熱部である照明ユニット 40 を螺旋状に囲った状態で保持部 51 と熱的に接続しており、照明ユニット 40 において最も発熱する光変換部材 43 の側方に位置決めされている。よって本実施形態では、効率よく熱を保持部 51 から熱伝導部材 70 に伝達できる。また本実施形態では、熱伝導部材 70 において、面方向の熱伝導率は、厚み方向の熱伝導率よりも高い。また熱伝導部材 70 は、導光部材 30 の基端部まで延設されている。このため、本実施形態では、熱を厚み方向よりも平面方向に伝達でき、熱を後方に伝達でき、照明ユニット 40 を効率よく冷却できる。

10

【0076】

また本実施形態では、カバー部材 31b によって、導光部材 30 が座屈することを防止でき、導光部材 30 が折れ曲がることを防止できる。

【0077】

また本実施形態では、保護部材 80 の内周面は、平滑に形成されている。これにより本実施形態では、挿入部 100 が湾曲することに伴い保護部材 80 が湾曲した際に、保護部材 80 の内周面が熱伝導部材 70 の外周面と接触することによって、熱伝導部材 70 の外周面を傷つけることを防止できる。また本実施形態では、挿入部 100 が湾曲し、保護部材 80 の内周面が熱伝導部材 70 の外周面に当接しても、熱伝導部材 70 を保護部材 80 に対して摩耗することなく滑らかに摺動させることができる。また湾曲部 103 を含む挿入部 100 が湾曲しにくくなることを防止でき、湾曲性能が低下することを防止できる。

20

【0078】

また本実施形態では、保護部材 80 の先端部が保持部 51 の外周面に接着されているため、挿入部 100 が湾曲しても、保護部材 80 の位置ずれを防止できる。

【0079】

なお本実施形態では、熱伝導部材 70 の先端部は、保持部 51 に接着によって固定されているが、照明ユニット 40 と熱的に接続していればこれに限定する必要はない。例えば、保持部 51 は、保持部 51 の中心軸を螺旋状に巻回するように保持部 51 の外周面に配設されている螺旋形状の溝部を有している。熱伝導部材 70 の先端部は、この溝部に嵌め込まれることで、保持部 51 に固定され、熱的に接続することとなる。この場合、例えば、熱伝導部材 70 の先端部の外径は、保持部 51 の直径と略同一となる。このように、固定は、接着に限定されない。

30

【0080】

また本実施形態では、保護部材 80 は、筒形状を有しており、導光部材 30 と熱伝導部材 70 と照明ユニット 40 とを筒状に囲って、これらを保護している。しかし、保護部材 80 が熱伝導部材 70 を保護することに特化していれば、これに限定する必要はない。例えば、保護部材 80 は、帯形状に形成される。そして帯状の熱伝導部材 70 は、熱伝導部材 70 と同様に螺旋状に形成され、螺旋状の熱伝導部材 70 の外面に貼り合わされ、熱伝導部材 70 と一体となる。そして、熱伝導部材 70 と保護部材 80 とは、前記したようにカバー部材 31b と照明ユニット 40 とを螺旋状に囲うように、配設される。この場合、保護部材 80 は、熱伝導部材 70 よりも外側に位置する。

40

【0081】

[第 2 の実施形態]

次に図 3A を参照して、第 2 の実施形態について説明する。本実施形態では、以下に、前記した実施形態の構成とは異なる構成のみ説明する。

[構成]

[熱伝導部材 70]

図 3A に示すように、熱伝導部材 70 は、筒形状、例えば円筒形状を有している。熱伝導部材 70 は、カバー部材 31a, 31b を含む導光部材 30 の先端部が熱伝導部材 70 に挿入され、照明ユニット 40 の 2 次光出射部 45 が外部に露出するように、導光部材 3

50

0の先端部と照明ユニット40とを全周に渡って筒状に囲っている。

【0082】

図3Aに示すように、熱伝導部材70の先端部は、照明ユニット40、例えば保持部51の外周面に、例えば接着部材71によって接着されている。詳細には、熱伝導部材70の先端部は、保持部51を全周に渡って筒状に囲った状態で、保持部51に接着されている。接着に関しては、第1の実施形態と同様である。つまり、先端部の内周面は、照明ユニット40、例えば保持部51の外周面に、例えば接着部材71によって接着されている。さらに詳細には、保持部51を筒状に囲う熱伝導部材70において、囲っている部分全体が保持部51の外周面に接着されていることが好適である。

【0083】

また図3Aに示すように、熱伝導部材70は、導光部材30に沿って後方に延びている。詳細には、熱伝導部材70は、カバー部材31bを全周に渡って筒状に囲った状態で、挿入部100の湾曲部103にまで延設せずに、先端硬質部101に内蔵されている。カバー部材31bを囲う熱伝導部材70において、囲っている部分はカバー部材31bに対して非接着となっている。

【0084】

[保護部材80]

図3Aに示すように、保護部材80は、第1の実施形態と同様に、筒形状、例えば円筒形状を有している。保護部材80は、照明ユニット40と、カバー部材31a, 31bを含む導光部材30の先端部とを全周に渡って筒状に囲った状態で、挿入部100の湾曲部103にまで延設せずに、先端硬質部101に内蔵されている。保護部材80の基端部は、カバー部材31bの先端部の外周面に、接着部材81によって接着されている。保護部材80の先端部は、第1の実施形態と同様に、照明ユニット40、例えば保持部51の外周面に、接着部材81によって接着されている。

【0085】

[効果]

本実施形態では、熱伝導部材70と保護部材80とは、第1の実施形態に比べて短く、先端硬質部101にのみ内蔵されている。よって、本実施形態では、内視鏡の湾曲部103において、湾曲部103内部の充填率が向上することを防止でき、湾曲部103を含む挿入部100が湾曲しにくくなることを防止でき、湾曲性能が低下することを防止できる。

【0086】

[変形例]

[熱伝導部材70]

図3Bに示すように、熱伝導部材70は、照明ユニット40とカバー部材31bとを全周に渡って筒状に囲った状態で、挿入部100の湾曲部103にまで延設されており、先端硬質部101と湾曲部103とに内蔵されている。熱伝導部材70の先端部は、保護部材80から照明ユニット40に向かって露出している。なお熱伝導部材70の基端部は、保護部材80を挿通せず、保護部材80によって全周を筒状に囲まれている。

【0087】

[保護部材80]

図3Bに示すように、保護部材80は、湾曲部103に内蔵されている。よって保護部材80は、湾曲部103においてのみ熱伝導部材70を保護する。保護部材80の基端部は、カバー部材31bの外周面に、接着部材81によって接着されている。保護部材80の先端部は、第1, 2の実施形態とは異なり、熱伝導部材70及び照明ユニット40を含む他の部材に対して非接着となっている。

【0088】

[効果]

一般的に、例えば内視鏡において、湾曲部103が最も多く且つ複雑に湾曲する。よって、保護部材80が湾曲部103に内蔵されることで、湾曲部103において、湾曲部1

10

20

30

40

50

03の内周面が熱伝導部材70に接触及び干渉することを保護部材80によって防止でき、湾曲部103の内周面が接触及び干渉によって熱伝導部材70を傷つけることを保護部材80によって防止できる。

【0089】

また本変形例では、保護部材80が先端硬質部101に内蔵される必要はないために、先端硬質部101を細くできる。

【0090】

[第3の実施形態]

次に図4を参照して、第3の実施形態について説明する。本実施形態では、以下に、前記した実施形態の構成とは異なる構成のみ説明する。

10

[構成]

[保持部51]

図4に示すように、保持部51の端部51aにおいて、端部51aの直径はカバー部材31bの内径と略同一で、端部51aはカバー部材31bに嵌め込まれる。この端部51aは、例えば、光変換部材43が配設されている保持部51の端部よりも細くなっている。

【0091】

[熱伝導部材70]

図4に示すように、帯状の熱伝導部材70は、カバー部材31bと保持部51の端部51aとを螺旋状に囲うように、配設されている。つまり熱伝導部材70は、カバー部材31bの中心軸を保持部51の中心軸とを螺旋状に巻回するように、カバー部材31bと保持部51の端部51aとを囲っている。

20

【0092】

図4に示すように、熱伝導部材70は、導光部材30に沿って後方に延びている。熱伝導部材70は、カバー部材31bを螺旋状に囲った状態で、導光部材30の基端部まで延設されている。カバー部材31bと保持部51の端部51aとを螺旋状に囲う熱伝導部材70において、囲っている部分はカバー部材31bと保持部51の端部51aとに、接着部材71によって接着されている。例えば囲っている部分の内周面は、これらの外周面に、例えば接着部材71によって接着されている。このように、熱伝導部材70は、カバー部材31bと保持部51の端部51aとに一体となっている。なお熱伝導部材70は、少なくともカバー部材31bの一部に接着されていればよい。

30

【0093】

[効果]

本実施形態では、熱伝導部材70とカバー部材31bとを一体化できるために、組み立て性を向上できる。

【0094】

[第4の実施形態]

次に図5を参照して、第4の実施形態について説明する。本実施形態では、以下に、前記した実施形態の構成とは異なる構成のみ説明する。

40

【0095】

[構成]

[熱伝導部材70・保護部材80]

熱伝導部材70と保護部材80とは、シート形状を有している。熱伝導部材70の表面及び裏面は、保護部材80によって覆われている。保護部材80は、接着部材81によって、表面及び裏面に貼り付けられている。よって、熱伝導部材70は、保護部材80によって挟持されている。そして熱伝導部材70と保護部材80とは、一体化している。保護部材80同士は、一体であっても別体であってもよい。

【0096】

[効果]

本実施形態では、一体化している熱伝導部材70と保護部材80とを後工程において、

50

簡易に照明ユニット４０に接着でき、組み立て性を向上できる。

【００９７】

〔第５の実施形態〕

次に図６を参照して、第４の実施形態について説明する。本実施形態では、以下に、前記した実施形態の構成とは異なる構成のみ説明する。

【００９８】

〔構成〕

〔保護部材８０〕

保護部材８０は、保護部材８０の厚み方向において、保護部材８０を貫通している貫通口部８０ａを有している。貫通口部８０ａは、例えば、円形状を有しており、複数配設されている。貫通口部８０ａは、保護部材８０の外部と内部とに連通している。

なお貫通口部８０ａの形状と数と配置の仕方とは、特に限定されない。貫通口部８０ａは、例えば、保護部材８０の中心軸方向に沿って配設されている縦長形状、または保護部材８０の中心軸の軸周り方向に沿って配設されている横長形状を有していてもよい。

【００９９】

〔効果〕

本実施形態では、貫通口部８０ａを通じて、保護部材８０の内部の熱を保護部材８０の外部に放出できる。また、本実施形態では、貫通口部８０ａを通じて、保護部材８０の外部から保護部材８０の内部に大気を流入でき、保護部材８０の外部と内部とにおいて対流を実現できる。これらにより、本実施形態では、保護部材８０の内部に熱がこもることを防止でき、放熱性を向上できる。

【０１００】

本発明は、上記実施形態そのままに限定されるものではなく、実施段階ではその要旨を逸脱しない範囲で構成要素を変形して具体化できる。また、上記実施形態に開示されている複数の構成要素の適宜な組み合わせにより種々の発明を形成できる。

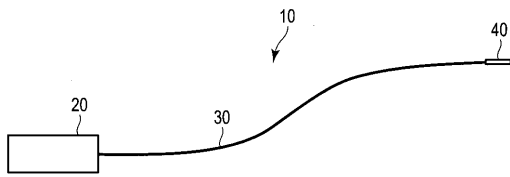
【符号の説明】

【０１０１】

１０…照明装置、２０…光源部、３０…導光部材、３１ａ…カバー部材、３１ｂ…カバー部材、４０…照明ユニット、４１…１次光入射部、４３…光変換部材、４５…１次光出射部、４７…光透過部材、４９…反射部材、５１…保持部、７０…熱伝導部材、８０…保護部材。

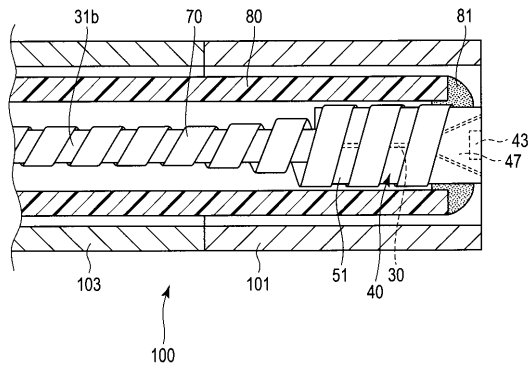
【図 1】

図 1



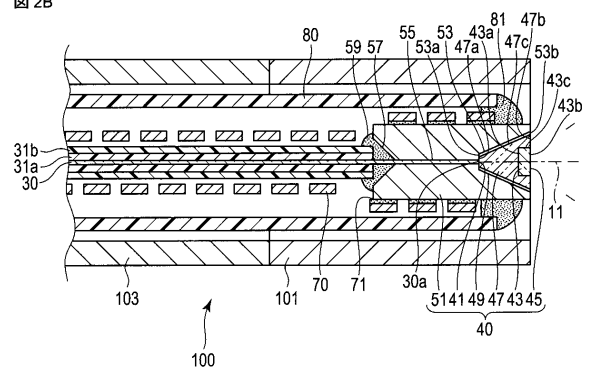
【図 2 A】

図 2A



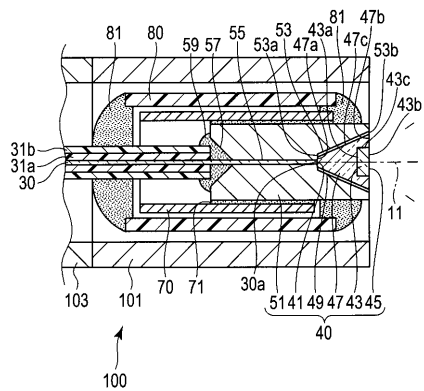
【図 2 B】

図 2B



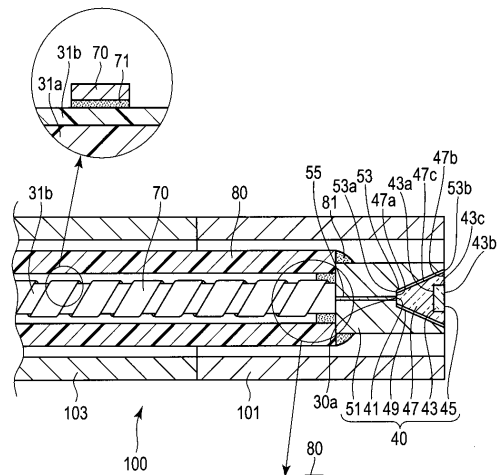
【図 3 A】

図 3A



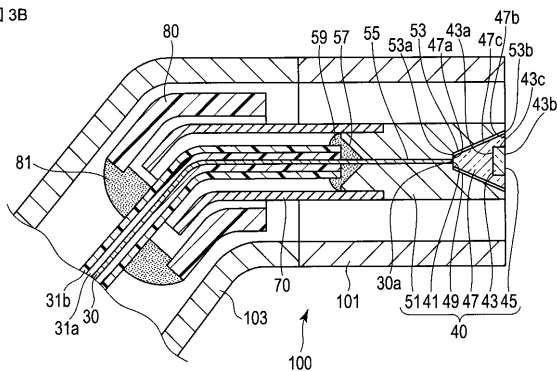
【図 4】

図 4



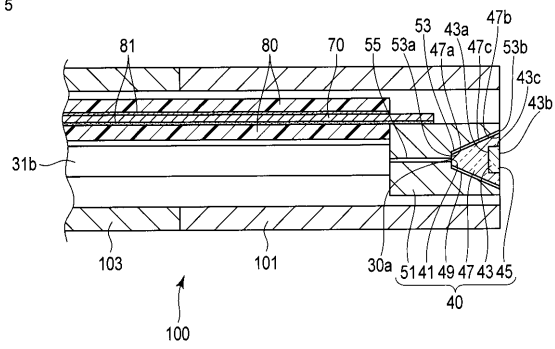
【図 3 B】

図 3B



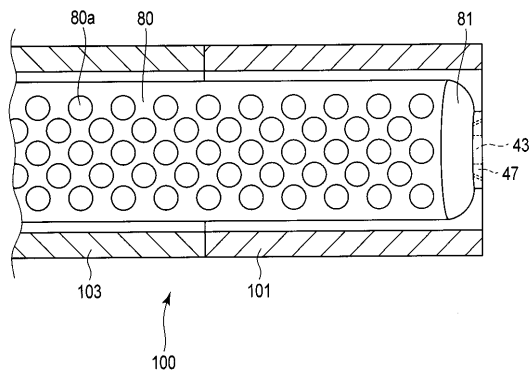
【 図 5 】

図 5



【 図 6 】

図 6



フロントページの続き

(74)代理人 100119976
弁理士 幸長 保次郎

(74)代理人 100153051
弁理士 河野 直樹

(74)代理人 100140176
弁理士 砂川 克

(74)代理人 100158805
弁理士 井関 守三

(74)代理人 100172580
弁理士 赤穂 隆雄

(74)代理人 100179062
弁理士 井上 正

(74)代理人 100124394
弁理士 佐藤 立志

(74)代理人 100112807
弁理士 岡田 貴志

(74)代理人 100111073
弁理士 堀内 美保子

(74)代理人 100134290
弁理士 竹内 将訓

(72)発明者 田中 良典
東京都渋谷区幡ヶ谷 2 丁目 4 3 番 2 号 オリnpas株式会社内

(72)発明者 大原 聡
東京都渋谷区幡ヶ谷 2 丁目 4 3 番 2 号 オリnpas株式会社内

F ターム(参考) 2H040 CA11 CA12 DA15
4C161 AA00 AA29 BB08 CC04 CC06 DD03 FF40 FF46 FF47 JJ01
JJ03 JJ06 JJ11 PP15 QQ04

专利名称(译)	<无法获取翻译>		
公开(公告)号	JP2014180458A5	公开(公告)日	2016-04-28
申请号	JP2013057267	申请日	2013-03-19
[标]申请(专利权)人(译)	奥林巴斯株式会社		
申请(专利权)人(译)	奥林巴斯公司		
[标]发明人	田中良典 大原 聡		
发明人	田中 良典 大原 聡		
IPC分类号	A61B1/00 A61B1/06 G02B23/26		
FI分类号	A61B1/00.300.P A61B1/06.A G02B23/26.B		
F-TERM分类号	2H040/CA11 2H040/CA12 2H040/DA15 4C161/AA00 4C161/AA29 4C161/BB08 4C161/CC04 4C161/CC06 4C161/DD03 4C161/FF40 4C161/FF46 4C161/FF47 4C161/JJ01 4C161/JJ03 4C161/JJ06 4C161/JJ11 4C161/PP15 4C161/QQ04		
代理人(译)	中村诚 河野直树 井上 正 冈田隆		
其他公开文献	JP6192322B2 JP2014180458A		

摘要(译)

解决的问题：提供一种照明系统，该照明系统可以防止由于曲率引起的导热构件的劣化和破损。导光构件30，其与光源单元光学连接并引导从光源单元发射的一次光。照明单元40转换由导光构件30引导的一次光的光学特性以产生照明光并发射该照明光。该照明系统还包括：在导热方向上具有各向异性的导热构件70，其直接且热地连接至照明单元40，并且沿着导光构件30布置；保护构件80设置在比导光构件30和导热构件70靠外侧的位置，以保护导热构件70。